

平成 27 年門真市議会第 3 回定例会 文教常任委員会

【所管事項】

無所属 戸田議員

幣原喜重郎の業績について

Q1 「門真の偉人＝幣原喜重郎」と言えば、降伏直後の総理大臣で、「戦争放棄」の強い情熱を持って平和憲法作定にあたった人として有名だが、その業績について、従来一般的に知られていた事を説明して欲しい。

A1 幣原喜重郎は、1872 年（明治 5 年）、門真一番下村において大変教育熱心であった幣原家の次男として生まれ、門真小学校で学び、わんぱくな少年時代を過ごした後、当時、国の直轄であった大阪中学校で英語の基礎を身につけ、東京の帝国大学に入学しました。

卒業後、外務省に入り、外交官として仁川、ロンドン、釜山、ワシントンなど世界各地へ赴任の後、51 歳にして外務大臣に就任し、「幣原外交」といわれる平和的な外交を展開しました。

終戦後の 1945 年（昭和 20 年）、73 歳で第 44 代内閣総理大臣に親任、大阪で生まれ育った唯一の総理大臣として、「日本国憲法改正草案要綱」を発表するなど、日本の民主化に尽力した人物です。

Q2 それは門真市の市民や子ども達には、どのような形で伝えられてきたか？（いつから、も含んで）・学校の教科書や授業、課外活動において・歴史資料館において・石碑など・広報その他において・講演会などにおいて

A2 学校教育におきましては、1975 年（昭和 50 年）に小学校社会科の副読本「わたしたちの町かどま」に業績を掲載し、3 年生の市内めぐりにおいて幣原兄弟顕彰碑を訪れています。

歴史資料館におきましては、2000 年（平成 12 年）に特別展を開催し、同年から常設展として郷土の偉人の生い立ちに焦点をあてた幣原家の足跡を伝えてまいりました。

幣原兄弟顕彰碑につきましては、1966 年（昭和 41 年）に建立された後、市内外の人が訪れてこられました。広報につきましては、折に触れて取り上げておりますが、例えば 2011 年（平成 23 年）に徳庵道の特集で掲載したほか、幣原喜重郎の生い立ちなどをわかりやすく伝える映像を 1996 年（平成 8 年）に制作

し、歴史資料館で見ることができるようにしています。

また、2013 年（平成 25 年）に発行した門真市暮らしの便利帳では、門真が誇る偉人としてその業績を紹介しています。講演会につきましては、2002 年（平成 14 年）に幣原家の方を招き講演会を開催しました。

Q3 戸田掲示板 8/20 投稿で、実はそれだけでなく、敗戦直後に日本人自身の手で戦争の原因と実相を調べるための調査会＝「大東亜戦争調査会」というものを設置した人でもあった！

この件、「日本近現代史の歴史家」の人が「最近、印象的な史料に出会いました」、と書いているくらいだから、もしかすると門真市立歴史資料館の幣原資料展示でも触れられていないかもしれない。門真市の市長や教育長も、議員も市民も、知らないだろうと推測する。と書いたが、市や歴史資料館の認識としては、どうだったか？戸田からの通報の後、調べてもらったが、調べた結果は現在どのようなものか？

A3 歴史資料館では、幣原喜重郎個人の実績のみならず、幣原家の歴史や地域の様子、家族との関わりなどについて多角的に展示しておりますが、当該調査会については認識しておりませんでした。

調べた結果につきましては、少しご説明が長くなりますが、幣原平和財団が 1955 年（昭和 30 年）に発行した「幣原喜重郎」や調査会に関する論考によりますと、当該調査会は、「敗戦に関して犯した過ちを繰り返さないこと」を目的とし、「敗戦・戦争の原因と実相の徹底的な調査」のため、幣原喜重郎内閣が 1945 年（昭和 20 年）11 月に設置しました。

設置経緯につきましては、戦争責任の調査と追及を求める世論を受け、敗戦原因の調査の必要性を指摘していた幣原が、「敗戦ノ原因及実相調査ノ件」として閣議決定し、設置され、総裁には幣原自らが就任し、調査方針として、戦争の起こった原因を世界史的立場に立って究明すること、戦争経過の実情を明確にし、敗戦に導いた真因を追求すること、降伏後の日本がどのような困難に直面し、処理したかを明らかにするなどして、戦争の顛末について正確な歴史的資料を後世に遺し、恒久的な平和日本を建設するため基本的な指標を導き出すものであることを策定しました。

しかしながら、連合国最高司令官の諮問機関である対日理事会において、ソ連代表が戦争の原因調査や戦争扇動者の処罰という任務は極東国際軍事裁判所に属していることや、元軍人などが委員として調査に携わっていることを批判し、解散を勧告したことなどにより、対日理事会での意見対立の長期化を懸念した GHQ の意向に応じ、日本政府は 1946 年（昭和 21 年）8 月に調査会の廃止を内定、9 月に廃止されました。

Q4 幣原喜重郎と「大東亜戦争調査会」の一件について、門真市教委として、さらに調査を進めて、市民に展示・啓発説明出来るようにしていくべきと思うが、どうか？またその推進をする体制や推進のメドはどうか？

A4 調査が十分に行われることなく廃止されたようであるため、新たに展示する資料としてどのようなものがあるかはわかりませんが、常設展のパンフレットに記載している年表を充実させたいと考えております。

歴史資料館の体制につきましては、正職員として生涯学習課長補佐、公民館長、文化会館長を兼務する館長が 1 名、学芸員が 1 名、非常勤嘱託職員 2 名の体制でございます。

Q5 とりあえず、「戦後 70 年」の今年中に幣原喜重郎と「大東亜戦争調査会」の一件を語れる研究者などに依頼して、門真市内で講演会を持つのが良いと思うが、どうか？朝日新聞記事に載った「日本の近現代史を研究する歴史家・加藤陽子さん」などに依頼してはどうか？

A5 郷土の偉人である幣原喜重郎の業績を、市民の皆さんにわかりやすく伝えることにより、幣原喜重郎が目指した「永久不滅の平和」について考えていただくとともに、市民が本市に対して誇りと愛着を持つことができる環境を醸成する取り組みを検討してまいります。

Q6 門真市やその周辺で、幣原喜重郎の業績を調査研究している団体個人はどのようなになっているか？歴史資料館・民間のグループや郷土史家、研究者など

A6 独自に調査研究している方はおられるかもしれませんが、門真市周辺で幣原喜重郎の業績の調査研究を行っている団体や個人について把握できておりません。

Q7 幣原喜重郎の業績の啓発継承を市が積極的に行なう事が、門真の市民や子ども達に誇りを生み、「門真市を愛する気持ち」をより育み、門真市の品格と魅力向上にも寄与すると確信するが、教委の認識はどうか？

A7 郷土の偉人である幣原喜重郎の業績を伝えることにより、市民が本市に対して誇りと愛着を持つことができる環境を醸成することは大変重要なことであると考えております。

Q8 今年度内にでも、新たに認識された業績の紹介を中心とした講演会などの啓発企画が出来るよう、市長部局にも働きかけて予算が出るようにして欲しいがどうか？

今後はせめて年に 1 回は幣原喜重郎に関連する市民向け行事をやるようにする、例えば「幣原喜重郎平和フェスタ」とか「幣原喜重郎平和憲法祭り」とか「幣原喜重郎の業績展示講演会」をやったり、「平和憲法制定首相のまち＝門真市」を「門真市の魅力」として打ち出したりする事については、どう考えるか？

A8 これまでにも先ほどご答弁したような内容を実施してまいりましたが、今後も引き続き、市民大学等の場を活用するほか、郷土の偉人である幣原喜重郎の業績を伝える新たな取り組みにつきましても、関係部署へ働きかけたいと考えております。